

令和5年度 第1回 東御市文化財保護審議会 次第

日時 令和5年11月6日(月)午後2時～

場所 中央公民館2階 学習室8

1 開 会

2 あいさつ

3 委嘱書交付

4 自己紹介

5 役員選任

会 長 _____

副会長 _____

6 報告

(1) 継続審議案件(審議済案件)

① ●●●●●● 蚕種用旧冷蔵庫について

② 丸山晚霞作素描 41点について

(2) 新規文化振興事業について

① 刀剣文化振興事業について(文化係)

② 百体観音石造町石・一番観音像の移設について

7 そ の 他

8 閉 会

文化財調査カード(指定理由書)

名 称	●●●●●●蚕種用旧冷蔵庫	
種 別	有形文化財(建造物)	
所 在 地	東御市本海野●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●
所有者又は管理者	●●●●●・●●●●●	
所有者等住所	東御市本海野●●●●●	●●●●●●●●●●●●●●
構 造 ・ 規 模	木造小屋組胴板葺き平屋建RC造(地下室あり)・平屋部分は6,985×3,634mm m+地下室入口2,390×1,045mm、地下室は8,170×5,760mm	
現 状 ・ 沿 革	●●●●で管理・使用、重要伝統的建造物群保存地区内の特定物件として指定。昭和5年建築の蚕種保存用の旧冷蔵庫。地下一階・地上一階建ての木造・一部RC建築。	
内 容	幕末から明治時代にかけて本海野地域では養蚕・蚕種業が盛んに行われ、●●●●でも蚕室を二棟建設し養蚕を行っていた。当時の蚕種は、風穴などを利用したある種自然の力に頼っての産業であったが、●●●●では自宅内に冷蔵庫を建設し、蚕種の保管をすることを計画して、他に例のない冷蔵庫を活用した養蚕・蚕種業に取り組んだ。一階屋根はトタン葺きを二重にして、空間に穀殻を大量に入れ、一部の外壁もRC構造にすることにより断熱を図った。一階床もトタンを貼るだけの簡単な構造として、地下の冷気を一階にも取り込み、桑の保管に使用したと考えられる。地下はRC構造で一部二重の壁で断熱を図り、氷を保管する部屋には棚が作られている。	
仕 様 用 具	特になし	
指 定 理 由	本海野に二十軒ほどあった蚕種業者において、他に例のない特殊な建築物で、県内外においても、今のところ類例が確認されていない。重要伝統的建造物群保存地区の特定物件として一階部分は修理工事が行われており、地下部分の保存状態もほぼ良好である。所有者一家においても、今後も保存の意思が確認され、状況に応じた公開についても了解が得られている。	
時 代 又 は 年 代	昭和5年	
指 定 の 有 無	無(重要伝統的建造物群保存地区の特定物件に追加指定)	
保 存 の 要 件	無	
文 献 ・ 資 料	東部町「海野宿町並調査報告書」昭和53年3月・東御市教育委員会「海野宿一見直し調査報告書」平成23年3月	
調 査 年 月 日	令和5年10月27日(所有者一家においての今後の保存、指定の承諾) 調査者 文化財係 堀田雄二	

文化財調査カード(指定理由書)

名 称	丸山晚霞作素描のうち41点	
種 別	有形文化財(絵画)	
所 在 地	東御市常田505-1 丸山晚霞記念館	0268-62-3700
所有者又は管理者	東御市	
所有者等住所	東御市県281-2	0268-62-1111
構 造 ・ 規 模	別添リスト参照	
現 状 ・ 沿 革	丸山晚霞記念館収蔵庫で保管、管理	
内 容	明治31年初夏、吉田博とともに日本アルプス写生旅行をおこなった時の素描を中心とする作品群。日本アルプスを描いた最初期の作品として、丸山晚霞記念館が所蔵する500点あまりの素描のなかの白眉といえる。	
仕 様 用 具	鉛筆、紙 一部淡彩 マット装	
指 定 理 由	明治中期の洋画の中で、制作年月、制作場所が明らかな風景画がこれほどそろっている例は希少である。近代日本風景画史を語るうえで、欠くべからざる重要な資料といえる。さらに、近年では、吉田博によるスケッチブックの研究も進み、本資料の位置づけもより明確になりつつある。 以上により、東御市の指定文化財として相応しいと考えるものである。	
時 代 又 は 年 代	明治31年6月	
指 定 の 有 無	無	
保 存 の 要 件	無	
文 献 ・ 資 料	水彩画雑誌『みづゑ』第14号(明治39年7月)、第16号(明治39年9月)に「飛驒の旅」というタイトルで、丸山晚霞による回顧文が上・下で掲載されている。	
調 査 年 月 日	調査者 丸山晚霞記念館 運営委員会委員(長野県立歴史館総合情報課学芸員) 林 誠 丸山晚霞記念館 館長 佐藤 聡史	

No	台帳番号	作品名	制作年	画材	支持体	サイズ縦	サイズ横
1	86	デッサン86	1898	水彩	紙	16.5	38
2	87	デッサン 30	1898	鉛筆	紙	16.5	38
3	345	デッサン 222 三才山	1898	鉛筆	紙	41	22.5
4	346	デッサン346	1898	鉛筆	紙	41	22.5
5	436	デッサン436	1898	鉛筆	紙	28	40.5
6	463	スケッチ463	1898	水彩	紙	50.5	32
7	465	デッサン465	1898	鉛筆	紙	30.5	48
8	466	スケッチ466	1898	水彩	紙	30.5	48
9	467	デッサン467 島々村	1898	鉛筆	紙	28.7	47.5
10	468	デッサン 336	1898	鉛筆	紙	28.7	47.5
11	469	デッサン469 大野川	1898	鉛筆	紙	29.5	47.5
12	470	デッサン470	1898	鉛筆	紙	48.5	31.5
13	489	デッサン489 梓川	1898	鉛筆	紙	29.3	37.3
14	490	デッサン490 松本	1898	鉛筆	紙	29.3	37.3
15	499	デッサン499	1898	鉛筆	紙	29	55
16	500	デッサン 368	1898	鉛筆	紙	29	55
17	507	デッサン507	1898	鉛筆	紙	29	57
18	528	デッサン528 島立村	1898	鉛筆	紙	28	41
19	529	デッサン529 大野川	1898	鉛筆	紙	40.7	28
20	530	デッサン530	1898	鉛筆	紙	22.3	40.8
21	535	デッサン535 白骨	1898	鉛筆	紙	28.5	28.8
22	543	デッサン543 島々村	1898	鉛筆	紙	22.5	41
23	544	デッサン544	1898	鉛筆	紙	22.5	41
24	577	デッサン577	1898	鉛筆	紙	29.5	47
25	578	デッサン578	1898	鉛筆	紙	29.5	47
26	579	デッサン579 島々村	1898	鉛筆	紙	31	48
27	580	デッサン358-0	1898	鉛筆	紙	48	31
28	581	デッサン581 高原川	1898	鉛筆	紙	29.2	47
29	582	デッサン582 梓川	1898	鉛筆	紙	29.2	47
30	583	デッサン583 白骨	1898	鉛筆	紙	28.5	49
31	589	デッサン589	1898	鉛筆	紙	27.5	50.5
32	590	デッサン590 梓川	1898	鉛筆	紙	29	47
33	596	デッサン596 飛驒宮川	1898	鉛筆	紙	29	57
34	597	デッサン 597 大野川村付近梓川花崗岩絶壁	1898	鉛筆	紙	29	57
35	598	デッサン598 三才山	1898	鉛筆	紙	27.5	57
36	661	デッサン661 平湯大滝	1898	鉛筆	紙	47	29
37	688	デッサン688	1898	鉛筆	紙	47.5	28.5
38	699	デッサン699	1898	鉛筆	紙	47.5	29
39	710	デッサン710	1898	鉛筆	紙	29	29
40	769	デッサン769 平湯	1898	鉛筆	紙	31	48
41	770	スケッチ 71	1898	鉛筆	紙	48	31

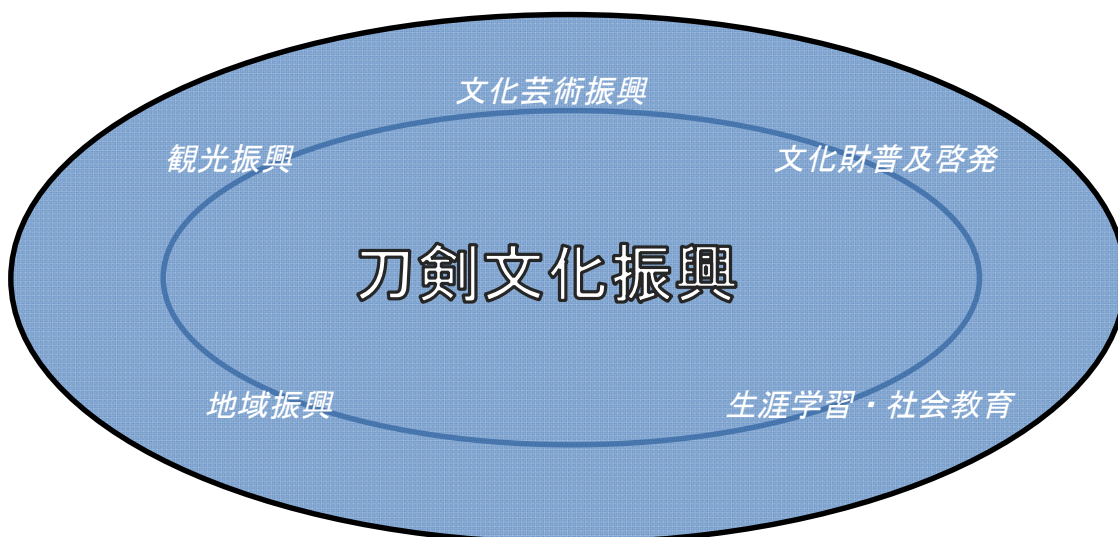
刀剣文化振興について

1 背景と目的

東御市滋野地区赤岩は刀工界において歴史にその名を遺す山浦真雄・源清麿兄弟の出生地であり、刀鍛冶の郷・聖地の一つとされています。

また、北御牧地区八重原は宮入法廣刀匠が鍛錬場を構えており、刀匠最高位である無鑑査刀匠、県無形文化財保持者でありながらも、数多くのプロジェクトに携わり、将来的に人間国宝として認定されることが期待されています。

令和5年3月に策定した東御市文化芸術推進計画において、文化振興のための具体的施策として基本目標「歴史に彩られた文化財の保存・継承」を提唱しており、今後は刀剣文化振興プロジェクトを文化の薫るひと・まちづくりの一端とし、観光、地域づくり等、他分野との連携により、文化芸術の多様な広がりを図ります。



2 今後の主な施策

(1) 所蔵刀剣の活用

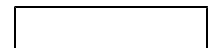
現在までに取得した刀剣の県・市文化財指定に向けた検討



所蔵品：山浦真雄脇差 【丸山晚霞記念館蔵】



寄託品：山浦兼虎太刀※真雄の長男
【梅野記念絵画館蔵】



(2) 山浦物里帰りプロジェクト（令和6年度～令和7年度）

源清麿の購入のためのクラウドファンディングの実施

(3) 刀剣振興のための人材確保及び育成

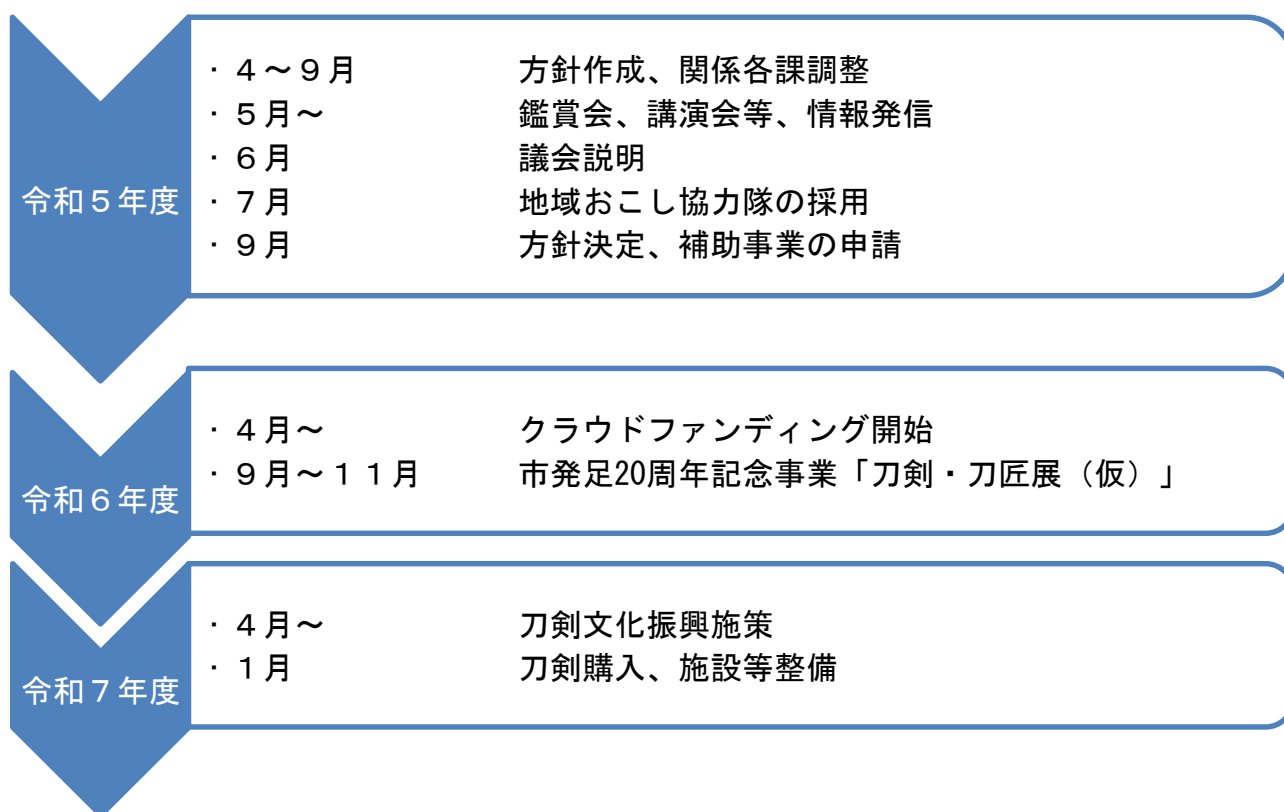
刀剣文化振興にかかる専門的な知識を有する学芸員、地域おこし協力隊の確保及び育成

(4) 市発足20周年記念事業「刀剣・刀匠展（仮）」（令和6年度）

市所蔵刀剣、法廣物の展示会の開催

（取得を目指す源清麿物を展示、クラウドファンディングへの機運の向上を図る）

3 今後のスケジュール（予定）



※事業の進捗や必要に応じ予算措置を講じるものとします。

山浦真雄（やまうら さねお） 1804～1874年

主に江戸で作刀を学び、小諸・上田・松代藩において鍛刀を行う。

刀剣史上に後々まで語り継がれる「松代藩荒試し」では、数多の名だたる刀が耐え切れず折れる中、真雄の刀だけは最後まで折れずに残り、その堅牢さに百人余の見物人が舌を巻いたと伝えられている。

源 清麿（みなもと きよまる） 1813～1855年

水心子正秀、大慶直胤と並び「江戸三作」と称された名工。

江戸の四谷（新宿区）に鍛刀場を開設。南北朝時代から鎌倉時代にかけて活躍した名工、「正宗」（まさむね）再来との呼び声が高く、「四谷正宗」の異名で称えられた。42年間の波乱に富んだ人生を送ったことから、新々刀期の刀工の中でも人気が高い。

百体観音石造町石・一番観音像の移設計画(案)

新張区長 ●●●●
(東御市新張●●●●)

1.事業実施概要

東御市の指定文化財である百体観音石造町石の起点となる一番観音像は、建立から150年が経過し石材そのものの劣化が著しくなっています。また、市道原口栗林線の道路に面した場所に設置されており、過去2回、交差点の事故に起因する像の損傷が発生しました。歩道、通学路脇の台上にあり、万が一、劣化により倒れた場合は歩行者に被害をもたらす危険性もあります。

そのような現況から鑑み、管理者である新張区としてもより安全な環境のもとに地域のランドマークでもある一番観音像を末永く保存していくため、同敷地内での移設を計画しました。

2.現状変更の内容

- ・現在の場所から、同敷地内(新張 1082)の北側へ5m～10m、セットバックし移設する。
- ・移設後は観音像を保護する建屋を設置し、風雨等の影響による経年劣化を防ぐ。
- ・建屋については木造による御堂型(四阿型)の新築を検討している。
- ・開口部を広く、周囲を格子状とし、従来どおり観音像全体を拝観できるよう工夫する。

3.事業実施予定時期

令和6年4月から

4.事業実施主体

新張区(管理者・事業実施者)、新張生産森林組合(土地所有者)

5.設置場所

別紙配置図参照